

7. 福祉制度

何らかの福祉制度を利用していたのは全体の78%であったが、多くが税の減免や特児、重度障害者医療助成といった助成に関するものであった。軽度の判定で療育手帳を持っている子どもは少ないと推測されたが、軽度の場合は手帳によるメリットが少ないため、あえて希望しないことがあると考えられる。中には、手帳に対して「レッテルを貼られる」拒否感から、希望しない人もいるだろう。また、手帳や手当を受けていない中には、知的程度の高い自閉症児で制度の対象とされない例も含まれていると思われる。「子どもを育てているの困難・不安」でも「利用できる制度が少ない」と24%が回答していた。

制度の情報は予想以上に届いておらず、「確実に届いている」と答えたのは、わずか11%であった。「届いていない」が29%もあり、中には「全く知らない」という回答もあった。情報提供については、早急に検討する必要がある、各機関で幅広く対応できる体制が求められている。

「今後利用したい制度」では「短期入所」が最も多かった。「緊急時の子どもの世話」で、多くの人々が「身内でする」と回答、「その他」には「今はまだ必要がない」という回答もあったが、親や身内の加齢や健康には不安を抱いており、サポートの必要性を感じていた。ほかには、「身近な場所で、緊急・短時間の預かり」という回答が複数あった。これは、買い物や通院など短時間の外出が困難ではあるが、サポート事業や民間の託児サービスでは、障害児の受け入れや親の安心感といった面で利用しにくい現状からくる、親の切実な要望と思われた。

8. 医療機関

「よく通っている病院」は「小児科」「歯科」「耳鼻科」の順であった。「病院の対応」については「よくない」は少なかった。これは、質問が「よく通っている」となっていることから、かかりつけ医など状況を理解してくれている医療機関が多いためではないかと推察される。中には理解のある医療機関を選んで通っている場合もあると思われる。

医療機関については、次年度に医師を対象としたアンケートを実施し、診療や関係機関との連携などを調査する予定である。

9. 地域の資源

地域の生活では、半数の子どもは近所に友達がおらず、安心して遊べる場所もなく余暇の過ごし方に困っていた。家庭の状況であげられた「子どもを育てているの困難不安」の中にも「友達」「遊び場所」「放課後の過ごし方」という回答が多かった。多量に、子どもひとりで出かけての利用が難しいことなどが影響していると思われる。

「ボランティアの利用」は、約10%にとどまっているが、まだ利用したことが無い人の半数が利用の意思を示していた。内容については、利用している人、これから利用したい人ともに「放課後や長期休暇中の遊び相手」が最も多く、そのほか、「登下校、外出時の付き添い」「親の外出時の短時間の預かり」といった要望が多かった。

ボランティアの存在や利用方法を知らない人もいたが、公的制度で補えない面でのサポートを期待する声が多く、潜在的なニーズは高いと考えられる。ボランティアを人的資源として位置付け、保障、育成していく体制が必要だろう。

今回のアンケート調査によって、自閉症児を抱え在宅する家族が直面する困難な現実と自閉症児の子育ては家族だけでは極めて限界があることが明らかとなった。現状は、在宅する子どもと家族を支援する制度やシステムが不十分であるだけでなく細切れであり、トータルな支援が得れない現実がある。

また、アンケート調査でどのステージにも出てきた「自閉症の理解」とステージをつないでいく「一貫性」（横の連携と縦の継承）は不可欠であり、制度の整備とともに早急に取り組まなければならない課題といえる。

在宅する子どもと家族だけでなく、在宅が困難となったり、あるいはより良い療育を求めて入所施設を利用している子どもの実態の把握も含めて、次年度は市町村における子どもと家族の一生涯を見据えた具体的な支援のあり方を検討していく。

資料1. アンケート調査用紙

アンケート調査回答用紙

該当する「□」にチェックを入れ、「()」は自由記述です。

尚、質問項目のあとに（複）と書かれている個所は複数回答が可能です。

1. 回答用紙に記入される方にお聞きします。

①住んでいる地域はどこですか。

函館市 渡島支庁管内 檜山支庁管内

渡島支庁：上磯町・七飯町・大野町・戸井町・南茅部町・森町・砂原町・八雲町 長万部町・知内町・木古内町・恵山町・榎法華村・鹿部町・松前町 檜山支庁：上の国町・江差町・乙部町・熊石町・瀬棚町・北桧山町・今金町 大成町・奥尻町・厚沢部町
--

②続柄

父 母 祖父 祖母 その他

③記入される方の年齢

～20歳 20歳～29歳 30歳～39歳 40歳～49歳
50歳～

2. ご家族についてお聞きします。

①家族構成（複） ☆自閉症のお子さんには○をお付け下さい。

父 母 長男 次男 三男 長女 次女 三女 祖父 祖母
その他

②転勤族ですか。

はい いいえ

③別居している祖父母（父方・母方どちらでも）は近く（車で30分以内）に住んでいますか。

はい いいえ

④父方の祖父母はお孫さんの障害について理解していますか。

はい いいえ

⑤母方の祖父母はお孫さんの障害について理解していますか。

はい いいえ

3. 兄弟姉妹（自閉症のお子さんの兄弟姉妹）についてお聞きします。

① 兄弟姉妹は障害について理解していますか。

はい いいえ どちらとも言えない まだ幼くて理解できない

②兄弟姉妹によく関わってあげていますか。

はい いいえ どちらとも言えない

③ 兄弟姉妹の育ちで困っていることはありますか。(複)

- ない 不登園・不登校 友達との関係 障害をもつ子どもとの関係
 家族との関係 成績不振(就学児) その他

④ あなたご自身のことについてお聞きします。

(ア) お子さんのことについて相談する人は誰ですか。

- 夫 妻 両親 親戚 友達 施設職員 医師 担任 保健婦
 児童相談所 その他

(イ) 過去を振り返って、精神的、肉体的にもっとも辛かった時期はいつ頃ですか。

- 診断を受ける前 診断を受けた時 幼児期 児童期 その他

(ウ) 自閉症のお子さんの育児はうまくいっていますか。

- はい いいえ どちらとも言えない

(エ) 希望してもお子さんがいることでできないことがありましたか。

○冠婚葬祭

- ほとんど出席できた 半分位できた ほとんどできなかった

○兄弟姉妹の行事(保育・授業参観・運動会・親子行事・その他)

- ほとんどできた 半分位できた ほとんどできなかった

○家族レクリエーション(旅行・キャンプ・外食など)

- ほとんど実現した 半分位しかできなかった ほとんどできなかった

○身内の介護

- ほとんどできた 半分位しかできなかった ほとんどできなかった

○里帰り

- ほとんどできた 半分位しかできなかった ほとんどできなかった

○友人との付き合い

- ほとんどできた 半分位しかできなかった ほとんどできなかった

○資格の取得(運転免許・ホームヘルパーなど)

- 希望の資格を取得できた 半分位できた ほとんどできなかった

① その他我慢せざるを得なかったことがありましたらお書き下さい。

()

(オ) 現在の育児は肉体的に負担ですか。

- そんなに負担ではない かなり負担である その時々によって異なる

⑥ 現在の育児は精神的に負担ですか。

- そんなに負担ではない かなり負担である その時々によって異なる

⑦ 働くことについて

- 就労中 働きたいが働けない 働く必要がない

⑧ ご自分の時間は一日にどれくらいありますか

- 5時間以上 4～3時間 2～1時間 1時間以内 ほとんどない

⑨配偶者がいる場合、お互いによく話し合うことができますか。

はい いいえ どちらとも言えない

5. 自閉症のお子さんについてお聞きします。

①年齢

1歳 2歳 3歳 4歳 5歳 6歳 小学1年 小学2年
 小学3年 小学4年 小学5年 小学6年

②性別

男の子 女の子

③療育手帳をもっていますか。

はい いいえ

④「はい」と答えた方で手帳に記載されている障害の程度。

A判定 B判定

⑤介護（あるいは介助）の必要性はどれくらいありますか。

ほとんど必要ない 場面や状況による ほぼ全面的に必要

⑥子どものことで心配なことはありますか。（複）

こだわり パニック 奇声 多動 虚弱 自傷行為（自分を傷つける行動） 他傷行為（他の人を傷つける行動） 睡眠障害

その他（ ）

⑦よく通っている病院はありますか。（複）

小児科医 歯科 皮膚科 耳鼻科 眼科 整形外科 精神科

その他（ ）

⑧「ある」と答えた方、病院の対応はどうでしたか。

よい まあまあ よくない 病院によって異なる

⑨現在通っている機関はどこですか。（中心に通っている機関）

どこにも通っていない 保育園 幼稚園 母子通園センター 通園施設
 普通学級 特殊学級 養護学校 その他（ ）

母子通園センター：地域療育センター風組・つぼみクラス・八雲町・森町・上の国町・松前町・今金町・奥尻町にあります。

通園施設：うみのほし学園・つくしんぼ学級

⑩並行して利用している機関はありますか。（複）

ことばの教室 地域療育センター 母子通園センター

その他（ ）

⑪過去に利用した機関を利用順に□内に番号を入れて下さい。同じ時期に並行して利用した場合は同じ番号を入れて下さい。

保育園 幼稚園 通園施設 母子通園センター 普通学級 特殊学級 養護学校 ことばの教室 地域療育センター その他（ ）

6. 自閉症の診断について

①発達に疑問をもった時期はいつ頃ですか。

1歳頃 2歳頃 3歳頃 4歳頃 5歳頃 6歳頃 その他 ()

②発達に疑問をもった人、あるいは指摘した人（一度専門機関でみてもらった方が良
いといわれた、など）はどなたですか。（複）

父 母 祖父母 友人 保育園や幼稚園の先生 保健婦
病院の医師 児童相談所の方 母子通園センターの方 障害児の親の会
の方 その他 ()

③診断は何歳に受けましたか。

1歳 2歳 3歳 4歳 5歳 6歳 その他 ()

④診断はどこで受けましたか。

函館市内の病院 他地域の病院 函館児童相談所（函館児童相談所の方が巡
回で地域に来たときも含む） 他地域の児童相談所 おしまコロニー地域療
育センター 市立函館保健所 他地域の保健所 その他 ()

⑤そこでの説明はわかりやすかったですか。

はい いいえ どちらとも言えない

⑥そこで、その後の相談や療育・保育の場の紹介はありましたか。

はい いいえ

⑦診断の結果をすぐに受け入れることができましたか。

はい いいえ 多少時間がかかった 家族間で違いがあった

⑧診断機関に望むことがありましたらお書き下さい。

()

7. 児童相談所についてお聞きします。

①児童相談所を利用しての感想。

よい まあまあ よくない

②どのような目的で利用しましたか。（複）

診断・判定 子育て相談 制度の紹介 通園施設などの施設利用の相談・
申請 療育手帳などの相談・申請 ショートステイなどの制度の利用申請
その他 ()

③児童相談所に望むこと。

自閉症の理解 親の気持ちの理解 他機関との連携 情報の提供
情報の開示 その他 ()

8. 市町村の母子保健についてお聞きします。

①「1歳半健診」は受けましたか。

はい いいえ

②「3歳児健診」は受けましたか。

はい いいえ

③「はい」と答えた方にお聞きします。職員の対応はどうでしたか。

よい まあまあ よくない

④どちらか(①・②)に、「いいえ」と答えた方にお聞きします。

健診日を知らなかった 気が進まなかった 別の予定があった

子どもの体調がよくなかった その他

⑤母子保健に望むこと。(複)

○健診について

自閉症の理解 親の気持ちの理解 健診・問診時のプライバシーの配慮

情報の開示 その他()

○検診後のサポート

定期的な連絡 専用の窓口の設置 情報の提供 その他()

9. 保育機関(保育園・幼稚園)についてお聞きします。

①保育園・幼稚園に通園しての感想。

よい まあまあ よくない

②すぐに入園できましたか。

できた 待たされた

③そこは以前から統合保育を行っていましたか。

いた いない

④健常児の親の理解について。

大部分の親が理解してくれている ごく一部の親しか理解していない

⑤保育機関の中で孤立感をもつことがありましたか。

ない ある どちらとも言えない

10. 療育機関について

①通園施設・母子通園センターに通園しての感想。

よい まあまあ よくない

②すぐに入園できましたか。

すぐに入園できた しばらく待った 1年間待った 2年間待った

希望の所へ入れず別の療育機関になった 希望したが入園できなかった

③通園施設・母子通園センターに望むこと。(複)

自閉症の理解 親の気持ちの理解 子どもにあった療育

すぐに入園できるようにしてほしい 他機関との連携 親の勉強会の開催

情報の提供 情報の開示 職員を増やしてほしい その他()

11. 就学指導委員会について

① 就学指導委員会の行う「就学指導」に行きましたか。

はい いいえ

②「はい」と答えた方にお聞きします。

よく話しを聞いてくれた あまり話しを聞いてくれなかった

希望する学校へ行けた 希望する学校へ行けなかった

③「いいえ」と答えた方にお聞きします。

就学指導委員会を知らなかった 気が進まなかった 別の予定があった

子どもの体調がよくなかった その他（ ）

④親の考え方と就学指導委員会の考えが一致しましたか。

はい いいえ その他（ ）

⑤就学指導委員会へ望むこと。

自閉症の理會 親の気持ちの理解 子どもが現在通っている機関内で就学指導の実施 情報の開示（例えば、検査の結果や指導委員の名前など）

その他（ ）

1 2. 学校教育についてお聞きします。

①通学しての感想。

よい まあまあ よくない

② 学校教育に望むこと。（学齡前のお子さんも回答をお願い致します。）（複）

自閉症の理會 子どもにあった教育 親の気持ちの理解 幼児機関と連携 個別教育計画への親の参画 情報の提供 情報の開示 親の学習會 同じ教師で何年か継続を その他（ ）

1 3. 福祉制度についてお聞きします。

①過去に利用した制度。（複）

短期入所（7日間のショートステイ） 短期入所（母子訓練事業）

短期措置入所（数ヶ月間の施設入所） 巡回相談（児童相談所や道の教育センターの地域巡回相談） 交通料金の助成 税の免除 特別児童扶養手当

重度障害者医療助成 その他（ ）

②制度や地域の資源に関する情報は確実に届いていますか。

はい いいえ 部分的に届いている

③緊急でお子さんの世話ができなくなった時どうしていますか。

身内のできる 友達に頼む 短期入所を利用する

その他（ ）

④短期入所（ショートステイ）を利用してどうでしたか。

よい まあまあ よくなかった

⑤今後、あるいは今後も利用したい制度はありますか。ありましたら記述下さい。

（ ）

1 4. 地域での生活について。

①地域に子どもの友達はいますか。

資料2 アンケート調査結果（その1 全体）

市町村における発達障害児と家族支援のあり方を考えるアンケート調査

1. 目的

自閉症児及びその家族の実態を把握し、子供や家族が地域で安心して、希望する暮らしができるよう制度の充実や新たな制度の創設を考える基礎資料とする。

2. 実施時期

平成12年12月10日から平成13年1月15日

3. 対象者

幼児期から小学校6年生で、自閉症児と診断を受けており、療育か教育を受けている児を育てている渡島・檜山管内の家族。

4. 実施方法

養護学校、知的障害児通所施設等の関係機関の協力を得て、自閉症と診断されている児の保護者に、アンケートの封書を渡し、返信郵送で回収。

5. 回収率

配布数134 回収数102 回収率76.1%

6. 回収結果

1) 回答者

①住んでいる地域（図1. 2）

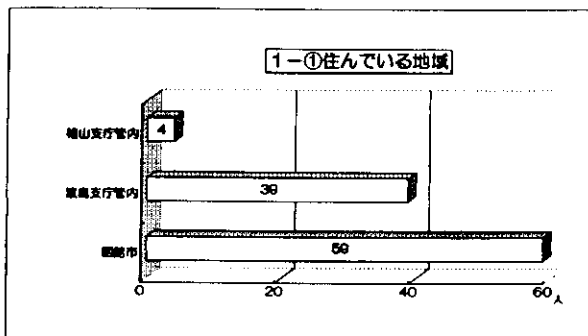
全回答者102名

函館市内在従者 59名回答者全体の58%

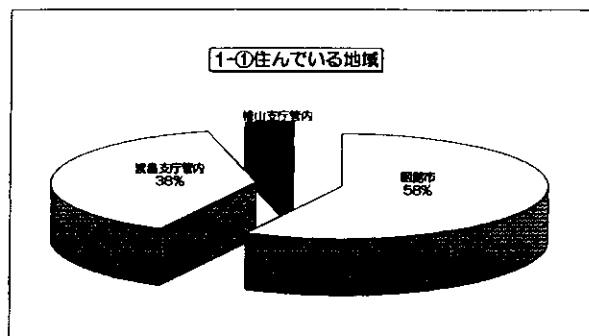
函館市以外の渡島支庁管内在住者 39名回答者全体の38%

檜山支庁管内在住者 4名回答者全体の4%であった。

（図-1）



（図-2）



②続柄（図-3）

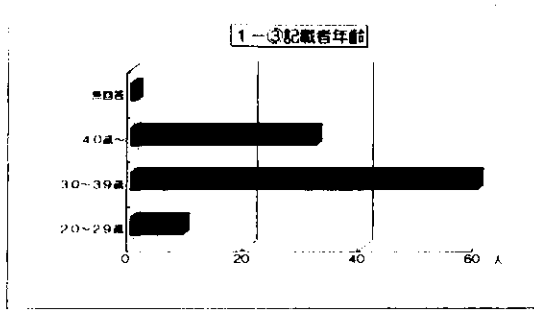
父親3名・母親98名・無回答1名であり、ほとんどが母親であった。

③記載者年齢（図-4）

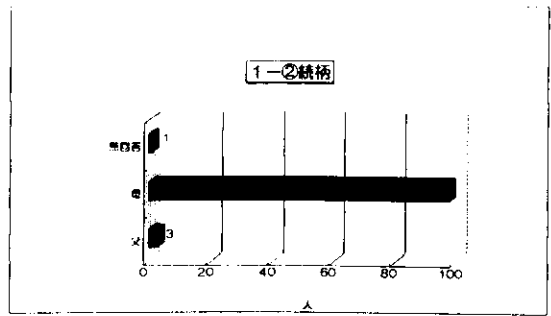
20～29歳9名・30～39歳60名・40歳～49歳32名であった。

30～49歳までは、約90%を占めている。

(図-3)



(図-4)



2) 家族

①家族構成 (図-5)

1) 両親と16人・両親と兄弟姉妹62人・両親と兄弟姉妹祖父母等6人・両親と祖父母3人。両親とその他3人・母親と2人・母親と兄弟姉妹1人・母親と兄弟姉妹祖父母等3人・無回答6名。無回答をはずすと、全児が両親及び母親と同居している。

2) 両親・母親以外の家族と生活している児は、84名で、約82.4%である。
兄弟姉妹のいる自閉症児は、72名。

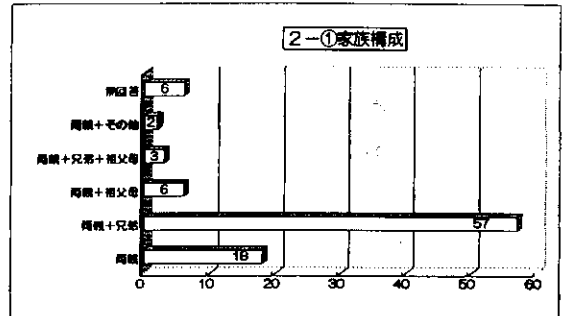
3) 母子家庭は、6名。父子のみの家庭はいない。

4) 男女の2児の自閉症児を持つ保護者が1名いた。

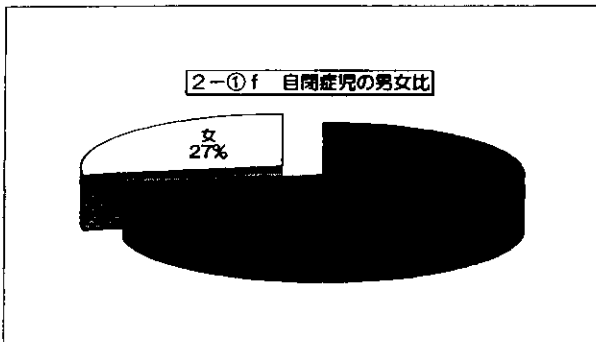
5) 自閉症児との続柄は(図-7)、長男が50人・次男18人・3男3人・長女21人・次女4人・3女2人の回答を合わせると、男80人約73%
女26人約27%であり(図-6)、男が女の約3倍であった。

無回答は、4名であった。

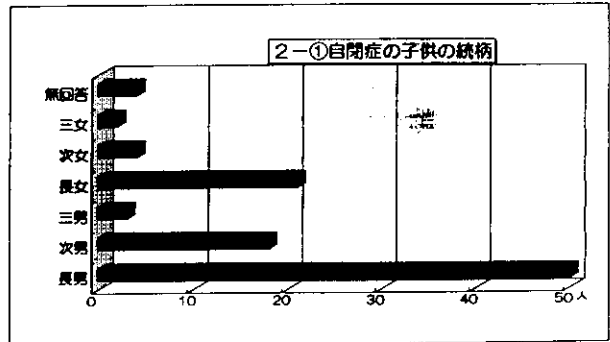
(図-5)



(図-6)



(図-7)



②転勤族

転勤族である25名24%。転勤族ではない77名70%。

約1/4の家族が転勤族だった。

③別居している祖父母

約60%の61人が車で30分以内の所にすんでいる。

④父方の祖父母の障害理解 (図-8)

理解している36人。していない11人。どちらとも言えない35人。
その他17人。無回答3人。

子供の年齢と理解について調べてみたが特徴的なものは見られなかった。

⑤母方の祖父母の障害理解 (図-9)

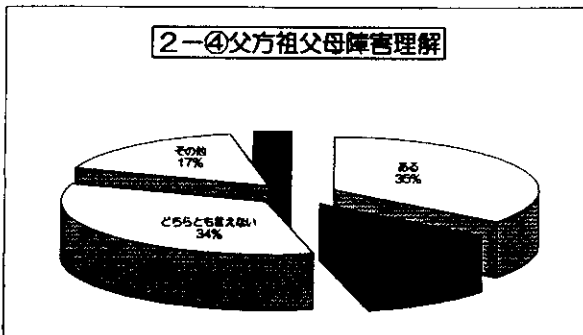
理解している62人。していない4人。どちらともいえない27人。
その他9人であった。

理解していない子供の年齢では、3歳・6歳・小学校2年生から6年生は、0人であった。

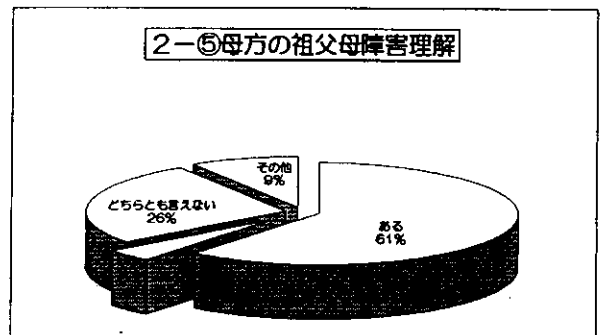
1)父方の祖父母に比較して、母方の祖父母理解度が約2倍高かった。

どちらとも言えないでは、父方母方両方合わせると、62人であり、回答者全体の30%を占めている。

(図-8)



(図-9)



3) 兄弟姉妹

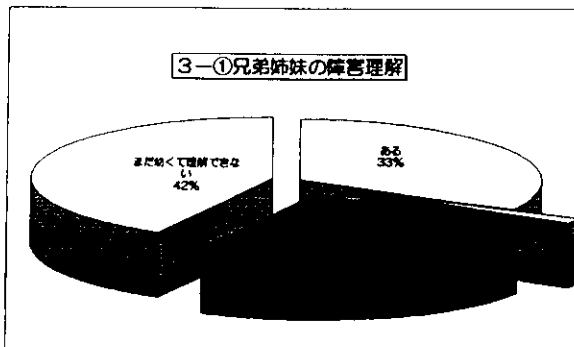
①兄弟姉妹の障害理解 (図-10)

している25人。していない1人。どちらとも言えない18人。まだ幼くて理解できない32名であった。

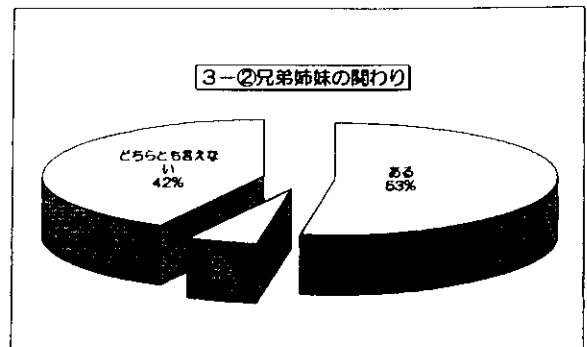
*76人の回答があったが、家族構成での兄弟姉妹ありは、72人であった。

質問が家族構成では同居と定義していなかったこと及び、兄弟はすでに独立しているなどにより同数とならなかったと思われる。

(図-10)



(図-11)



②兄弟姉妹との関わり (図-11)

よく関わっている40人。どちらとも言えない32人。関わっていない4人であった。

③兄弟姉妹の育ちで困っていること

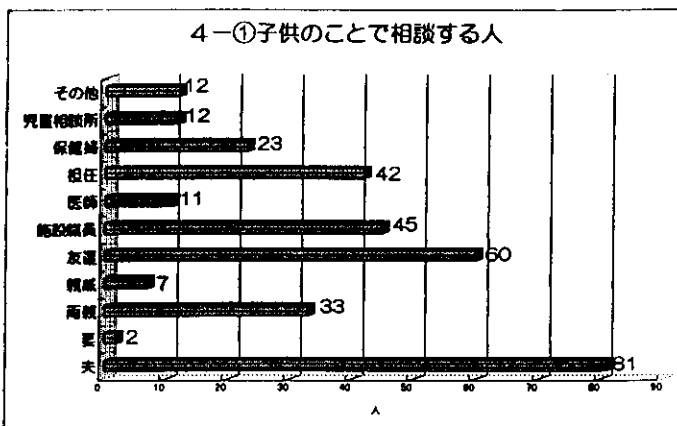
ない36人。障害を持つ子との関係22人。友達関係9人。成績不振4人。家族関係2人。その他11人であった。

4) 回答者自身のこと

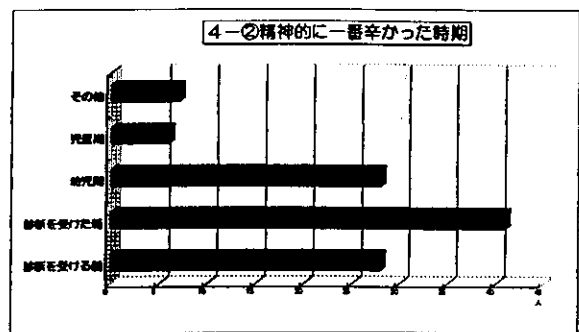
①児のことで相談する人 (図-12)

夫81人で一番多く、約78.4%の母親は、夫に相談している。次に友達60人。施設職員45人。担任42人。両親33人。保健婦23人などであった。

(図-12)



(図-13)



②精神的肉体的に一番つらかった時期 (図-13)

診断を受けたとき41人。診断を受ける前・幼児期各28人。児童期6人。その他7人。無回答1人であった。

*質問では、「もっとも」と定義したのだが、回答を複数回答としたため、正確な把握ができなかった。

複数回答者は、診断の前時1名。診断時及び幼児期2人。

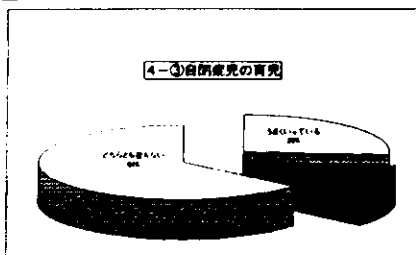
診断時及び幼児期及び児童期が1人。幼児期及び児童期4人であった。

③育児はうまくいっているか。(図-14)

どちらとも言えない65人。うまくいっている27人。うまくいっていない10人であった。

5歳及び6歳を持つ回答者は、約半数の人がうまくいっていると答えている。

(図-14)



④希望しても子供がいることでできないこと

1)冠婚葬祭

半分ぐらい出席できた43人。ほとんど出席できた28人。ほとんどできなかった25人。無回答5人。出席する機会無かった1名であった。

2)兄弟姉妹の行事

半分ぐらいできた41人。ほとんどできた29人。ほとんどできなかった4人。質問2の家族構成で、兄弟姉妹は72人。質問3の兄弟姉妹での回答者は76人。回答者数が一致しなかった。

3)家族レクレーション

ほとんど実現46人。半分位しかできなかつた35人。ほとんどできなかった21人であった。

4)身内の介護

ほとんどできなかつた26人。半分位しかできなかつた24人。

ほとんどできた11人であった。無回答34人。

*介護対象者がいるのかを、把握しなかつたため正確な把握ができなかつた可能性がある。

5)里帰り

ほとんどできた59人。半分位しかできなかつた22人。ほとんどできなかった7人。無回答11人。里帰りの必要ない3人。

6)友達とのつきあい

半分位しかできなかつた46人。ほとんどできた28人。ほとんどできなかった26人。無回答2人。

7)資格取得

ほとんどできなかつた38人。希望の資格を取得できた12人。無回答38人。必要なかつた5人。

⑤現在の育児は、肉体的に負担か。

その時々によって異なる56人。そんなに負担はない32人。かなり負担である14人。

年齢別に見ると、小学校4年生以外の約半数以上の人、その時々によって異なると答えている。

⑥現在の育児は、精神的に負担か。

その時々によって異なる61人。かなり負担である22人。そんなに負担ではない19人。

年齢別に見ると各年齢層の約半数以上の人、その時々によって異なると答えている。

⑦働くことについて

現在就労している人24人。働きたいが働けない58人。働く必要がない18人。その他及び無回答各1人。

⑧自分の時間

1～2時間36人。3～4時間30人。5時間以上10人。1時間以内9人。

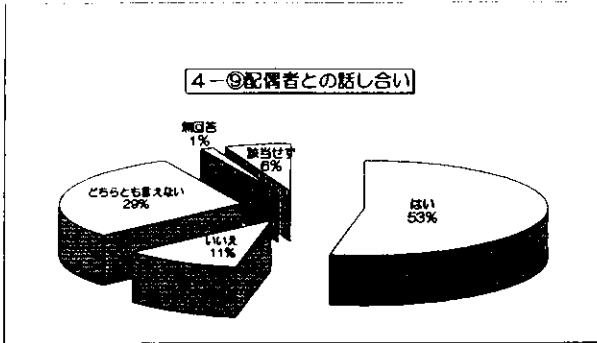
ほとんどない16人。無回答1人。

年齢別に見たが、目立った特徴はなかった。

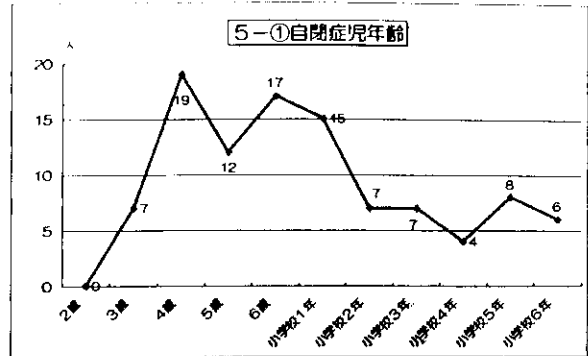
⑨配偶者とよく話し合えることができるか。(図-15)

できる54人。どちらとも言えない30人。できない11人。該当せず6人。

(図-15)



(図-16)



5) 自閉症児について

①年齢 (図-16)

3歳～6歳55人 (3歳7人・4歳19人・5歳12人・6歳17人)

小学1年生～6年生47人 (1年生15人・2、3年生各7人・4年生4人・5年生8人・6年生6人)

②性別

男児75人。女児27人で、男児は全体の約73.5%の割合である。

③療育手帳の有無 ④療育手帳の障害程度

持っている74人中、A判定24人。

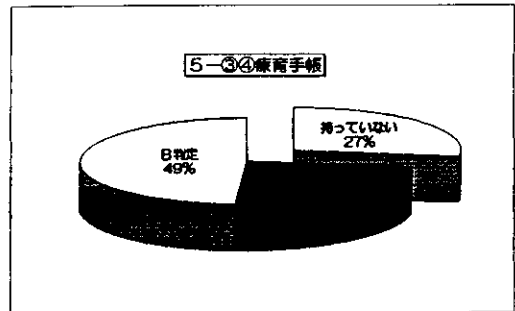
B判定50人

持っていない28人。

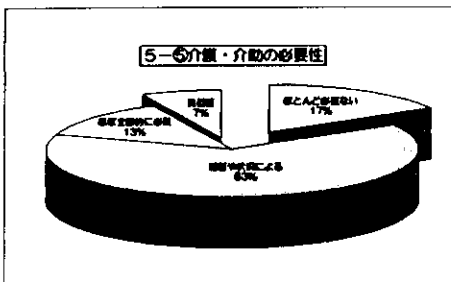
⑤介護の必要度 (図-18)

ほとんど必要ない17人。場面や状況による65人。ほぼ全面的に必要13人。無回答7人。

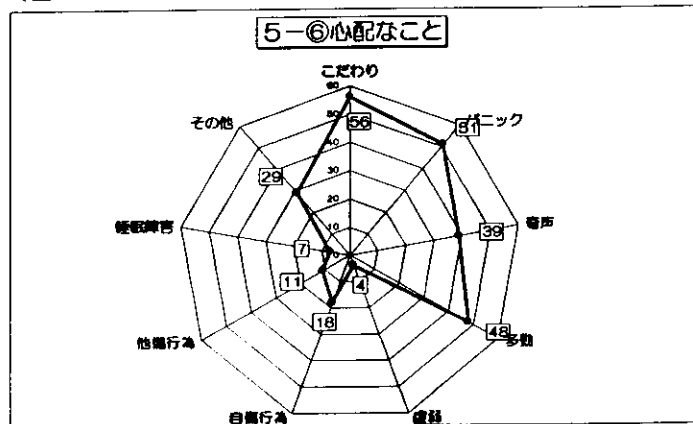
(図-17)



(図-18)



(図-19)



⑥子供のことで心配なこと

こだわりが一番多く56名。

次にパニック51名。他動48

名。奇声39名。自傷行為18人。他傷行為11人。睡眠障害7人。その他29

人であった。

年齢別に見ると、4歳の児は一人平均で約3.7種類のチェックがあり、続いて小学4年生では約3.5個のチェックがあった。

⑦良く通っている病院

小児科68人。歯科34人。耳鼻科16人。皮膚科6人。眼科4人。精神科2人。その他2人であり、小児科と歯科が多かった。

⑧通っている病院の対応

良い37人。まあまあ良い24人。良くない2人。病院によって異なる20人。無回答1人であり、全体の回答者84人中61人72.6%は、まあまあ及びよいと回答している。

⑨現在中心的に通っている機関

小学生47人中、特殊学級29人・養護学校14人で、約91.5%が特殊学級及び養護学校に通学している。普通学級4人。

通園施設26人。母子通園センター8人。保育園13人。幼稚園8人。

⑩平行して利用している機関

地域療育センター11人。ことばの教室9人。母子通園センター6人。その他3人であった。

⑪過去に利用した機関

最初に利用した機関は、母子通園センター29人。地域療育センター27人。

保育園20人。幼稚園8人。ことばの教室6人。その他7人。無形等5人。

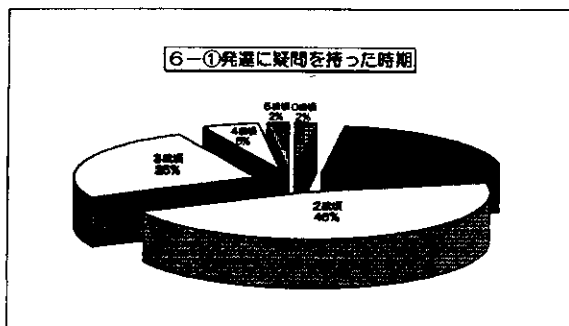
2番目に利用した機関は、通園センター14人・地域療育センター13人・通園施設11人の順であった。

6) 自閉症児の診断について

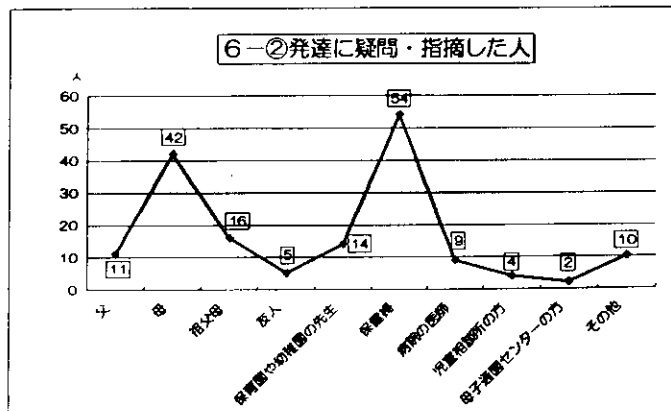
①発達に疑問を持った時期 (図-20)

2歳頃47人。3歳頃26人。1歳頃20人。4歳頃5人。0.5歳頃各2人。

(図-20)



(図-21)



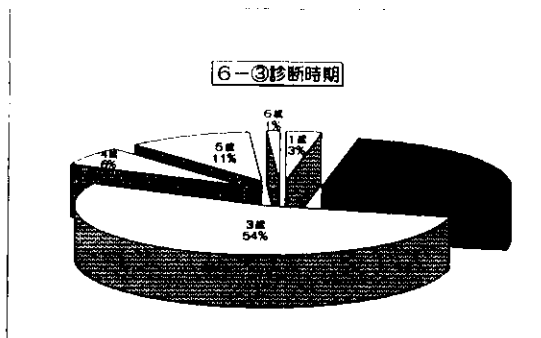
②発達に疑問を持った人指摘した人 (図-21)

保健婦54人。母42人。祖父母16人。保育園幼稚園の先生14人。父11人。医師9人。友人5人。児童相談所職員4人。母子通園センター職員2人。その他10人。

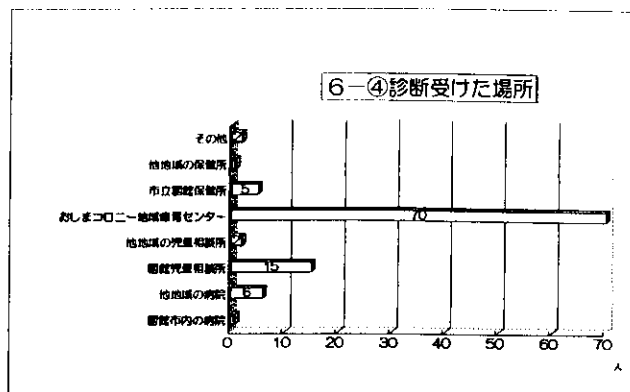
③ 診断を受けた時期（図-22）

3歳55人。2歳26人。5歳11人。4歳6人。1歳3人。6歳1人。

（図-22）



（図-23）



④ 診断を受けた場所（図-23）

おしまこころー地域療育センター70人。函館児童相談所15人及びその他の児童相談所2人。函館市内病院1人及び他地域の病院6人。函館保健所5人及びその他の保健所1人。その他2人。

⑤ そこでの説明

判りやすかった58人。どちらとも言えない33人。判りにくかった10人。無回答1人。

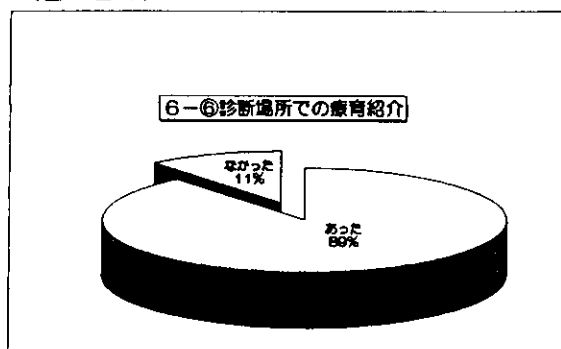
⑥ そこで、その後の相談・療育・保育の紹介あったか。（図-24）

あった90人。無かった11人。無回答1人で、約88.2%には紹介があった。

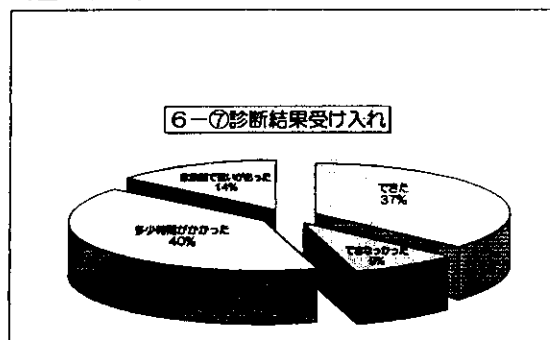
⑦ 診断結果を、すぐ受け入れることができたか。（図-25）

多少時間がかかった41人。受け入れた37人。家族間で違いがあった14人。受け入れできなかった9人。無回答1人。

（図-24）



（図-25）



7) 児童相談所について

① 児童相談所を利用しての感想

利用者96人中、まあまあ49人。良い19人。良くない27人。無回答1人。まあまあと良いで、やく70.8%。よくないはやく28.1%であった。

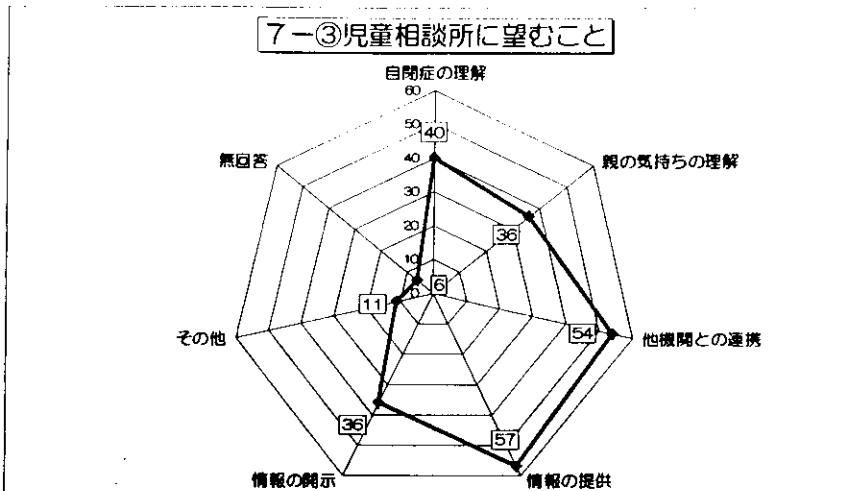
② 利用目的

判定診断70人。療育手帳等の相談申請63人。通園施設等の施設利用相談申請51人。ショートステイ等の制度の利用申請14人。制度の相談8人。子育て相談6人。その他3人。ほとんどが各種制度活用の相談・申請である。

③児童相談所に望むこと（図-26）

情報の提供57人。他機関との連携54人。自閉症の理解40人。親の気持ちの理解・情報の開示各36人。その他11人。無回答6人であった。

（図-26）



8) 市町村の母子保健

①「1歳6か月健診」の受診

受けた94人。受けない5人。無回答3人。
約94.2%の児は受けている。

②「3歳児健診」の受診

受けた86人。受けない13人。無回答3人。
約84.3%の児は受けている。

③職員の対応

まあまあ49人。良い26人。良くない15人。無回答9人。
約15.2%は良くないと回答している。

④検診を受けなかった理由

気が進まなかった8人。別の予定があった1人。子供の体調が良くなかった1人。
その他7人。無回答1人。

⑤母子保健行政に望むこと

1) 健診について

自閉症の理解69人。親の気持ちの理解51人。プライバシーの配慮36人。
情報の開示34人。その他14人。無回答8人。

2) 健診後のサポート

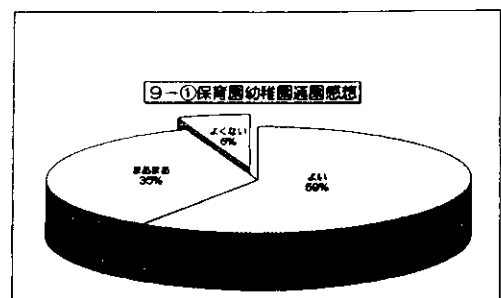
専用相談窓口設置52人。情報の提供52人。
定期的連絡42人。その他7人。無回答9人。

（図-27）

9) 保育機関（幼稚園・保育園）

①通園しての感想（図-27）

良い32人・まあまあ19人で約92.7%は良かったと評価している。良くない3人。
無回答1人。



②すぐ入園できたか（図-28）

できた50人。待たされた4人。無回答1人。

③以前から統合保育を行っていたか。

行っていた32人。いなかった19人。

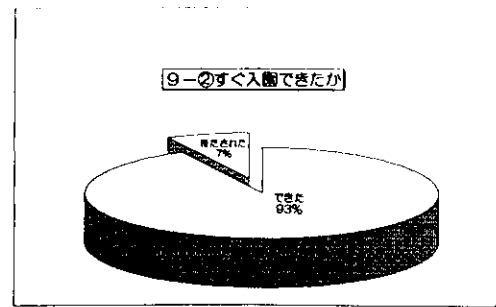
無回答4人。

④健常児の親の理解（図-29）

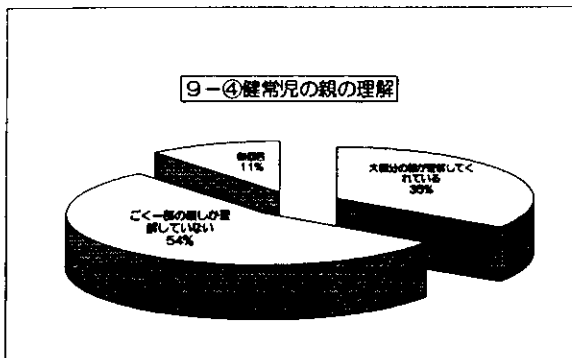
ごく一部の理解30人。大部分の親の理解

19人。無回答6人。

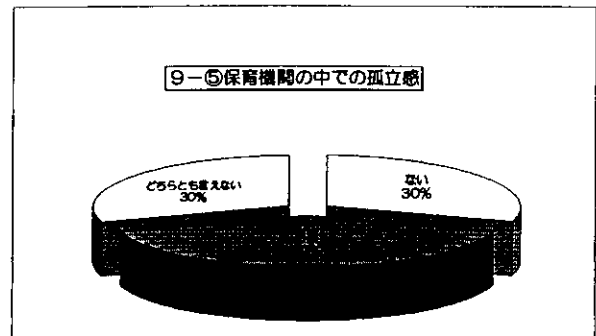
（図28）



（図-29）



（図-30）



⑤保育機関の中での孤立感（図-30）

ある22人で、全体の約40%。無い16人。どちらとも言えない16人。無回答1人。

10) 療育機関

①通園施設・母子通園センターに通園しての感想

良い58人。まあまあ21人。良くない3人。

利用者82人中の約96.4%は、良いまあまあと答えている。

②すぐ通所できたか

できた66人。しばらく待った13人。1年待った1人。希望の所利用できず他の機関になった2人。

しばらく待った。希望利用できず等を合計すると、16人であり約19.5%の児は、すぐ利用できなかったり他の機関を利用したりしている。

③通園施設・母子通園センターに望むこと

子供にあった療育52人。情報の提供36人。他機関の連携34人。親の気持ちの理解31人。親の勉強会の開催21人。自閉症の理解29人。職員の増員19人。すぐ入園できるようにしてほしい18人。その他12人。無回答4人。

11) 就学指導委員会について

①就学指導委員会の行う「就学指導」に行ったか

行った46人。行かない23人。

②「はい」と答えた人

良く話を聞いてくれた20人。あまり話を聞いてくれなかった5人。

希望する学校へ行けた20人。希望する学校へ行けなかった2人。

その他2人。無回答3人。

この項目には、2つの質問形式が入っており、回答者を混乱させたようで正確な回答は得られなかった可能性がある。

③「いいえ」と答えた人

就学指導委員会を知らなかった7人。気が進まなかった5人。別の予定があった3人。子供の体調が良くなかった1人。その他7人。

④親の考えと就学指導委員会の考えの一致

一致した27人。しなかった15人。その他6人。無回答5人。

⑤就学指導委員会に望むこと

自閉症の理解40人。親の気持ち32人。情報の公開31人。子供の通っている機関での就学指導の実施25人。その他6人。無回答5人。

12) 学校教育

①通学しての感想

良い24人。まあまあ16人。良くない4人。無回答3人。

②学校教育に望むこと

子供にあった教育63人。自閉症の理解57人。同一教師の継続42人。親の気持ちの理解34人。個別教育計画への親の参画26人。情報の提供26人。情報開示22人。親の学習会の開催18人。その他14人。無回答27人。

13) 福祉制度

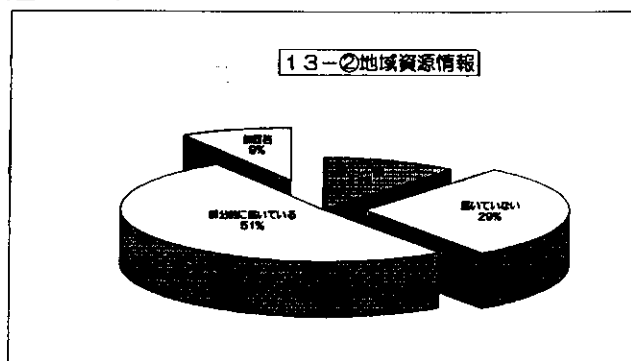
①過去に利用した制度

特別児童扶養手当67人。税の免除55人。重度障害児医療助成40人。巡回相談33人。交通料金女性27人。短期入所（母子訓練）21人。短期入所4人。短期措置入所3人。その他2人。

②制度・地域の資源に関する情報（図-31）

届いている11人。部分的に届いている52人。届いていない30人。無回答9人。

（図-31）



③緊急で児の世話ができなくなったとき

身内でできる60人。短期入所利用9人。友人5人。その他22人。無回答6人。

児の年齢別に見ると、3歳及び小学校2年以外の年齢の半数以上の方が身内でできると答えている。